

閑上の浜辺を〈海岸のお花畑〉に

NPO法人名取ハマボウフウの会

「閑上海岸から空港まで、ハマボウフウを中心に海浜植物が咲き誇るお花畑にするのが夢」とNPO法人名取ハマボウフウの会（以下、ハマボウフウの会）の今野義正理事長は笑顔で語ります。ハマボウフウは各地で絶滅が危惧されているせり科の多年草です。昭和30年代には閑上海岸にも群生していましたが、食用や薬用としての乱獲や、護岸工事やレジャー四駆の砂浜への乗り入れで砂浜が踏み荒らされたため、絶滅したと思われていました。

しかし、平成12年にこの幻の植物が3株発見されたのです。これをなんとか守り育てようと、翌年ハマボウフウの会を設立。健康で美しいふるさとの海岸再生を目標に、ハマボウフウ保護区でのハマボウフウの育成や、閑上海岸の清掃活動が始まりました。



移植会と海岸清掃

閑上の希望

それから10年以上かけて保護・育成に取り組み、成果が実を結びつつあった2011年、東日本大震災の大津波がハマボウフウを襲いました。閑上海岸が濁流と瓦礫に覆われ、2万4千本以上あったハマボウフウは壊滅的な被害を受けました。会員の多くが被災し、活動どころではない惨状だったため、今野理事長はもう活動は続けられないと思ったといえます。

しかし、震災直後の6月、海岸には泥を被りながらも白い花をつけたハマボウフウの姿がありました。「自然の回復力と生命力の強さに感動し、希望を取り戻しました」と今野理事長は語ります。

閑上に広がる協働の輪

「ハマボウフウが頑張っているのに、自分たちがあきらめるわけにはいかない!」と、ハマボウフウの会は活動を再開します。



フォーラムで発表する今野理事長

昨年は、名取市に「名取の海岸復興を目指す「海岸のお花畑」再生事業」を提案し、今年度は市と協働でその事業に取り組んでいます。その一環で、6月には2日間にわたり「海岸のお花畑づくり～ふるさと海辺フォーラムとハマボウフウ移植会」を開催しました。

海辺フォーラムには、全国各地で海浜植物の保護活動に取り組む14団体62名が参加。それぞれのフィールドでの活動内容や、効果的な保護方法などの情報が活発に交わされました。

翌日は、閑上海岸復興を願う市民約150名が集い、この日のために会員が育ててきたハマボウフウの若苗2,000本が元気に育つことを願いながら、閑上の保護区に移植しました。

ハマボウフウが砂浜に深く根を張って浜辺を護るように、ハマボウフウの会も、地域にしっかり根ざしながら、活動を続けていきたいと想いを新たにしています。

NPO法人ハマボウフウの会

〒981-1213 名取市閑上字佛文寺45-1
TEL/FAX: 022-385-2345 (今野)
E-mail: konno1942@gmail.com
URL: <http://hamabouhuu.info>